

	課題分析	授業改善策
国語	○漢字の書き取りに苦手意識をもつ生徒が多い。また、語彙力が不足している。 ○要旨や主題をまとめ、さらに自分の考えや思いをまとめることに苦手意識をもつ生徒が多い。	○漢字は定期的に小テストを行い、学習の習慣化を図る。また、語彙を増やすため、新しい教材において意味調べをし、能動的に語彙の力をつけていく。 ○要旨や主題をまとめたり自分の考えや感想、授業の振り返りを書いたりする時間を設け、考えを書くことへの抵抗感を減らす。
社会	○問いに対して、自分の意見を積極的に発表しようという生徒と、他人任せで受け身の授業姿勢の生徒との差が大きい。 ○学んだことをもとにしながら、根拠立てて自分の考えをまとめる力を伸ばす必要がある。	○積極的に発言する生徒に対して、じっくりと考えをまとめてから発表する課題を設定する。受け身の姿勢の生徒に対しては、グループで探究的な活動を行い、小集団の中で自分の意見を発表する機会を増やし、自信をもたせる。 ○グラフや図等の資料をもとに自らの意見を論理的にまとめる活動を増やす。
数学	○基礎的・基本的な「知識・技能」の習得については、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。 ○「数学的な見方や考え方」を伸ばす指導の工夫が必要である。 ○積極的に発言をしている生徒が多い。 ○振り返りにおいて、誤答に対する分析が核心までたどり着けていない生徒が多い。	○単元の始めに、振り返りテストを実施し、既習事項を振り返り、習得状況の確認を行う。机間指導、ワークシート等の活用を通して、基礎的・基本的な「知識・技能」の定着を図る。また、単元テストや定期考査を通じて、生徒のつまづきを発見し、的確な助言や指導を行う。 ○答えを教えるだけでなく、生徒自身に、「なぜそうなるのか?」「ほかに方法はないのか?」などの問いを立てさせ、多角的な視点でとらえる力を養う。 ○習熟度に応じて、発展的内容を取り入れる。1つの課題を深く検討する時間を設けるだけでなく、類題等にも触れる中で思考力・判断力・表現力を伸ばす工夫をする。 ○ICTを活用して、抽象的な数学の概念を視覚的に提示し、具体的なイメージを持たせることで生徒の理解を深めていく。 ○Google フォームを用いて、自身の学習の取組に対して、適宜振り返りをする機会をつくる。成功要因や改善点に気づき、自己理解を深める。
理科	○定期考査の結果と生徒アンケートから、密度の計算の正答率が低く、また苦手と感じている生徒が多い。 ○ガスバーナーや顕微鏡など、器具の扱いに慣れていない生徒が多く、不適切な使い方をしてしまう生徒が多く見受けられる。	○密度の概念を自分たちで考えさせるなど、その意味を深く理解させる活動を今後も計算が必要な単元の授業に取り入れる。また数学科と協力して、割合の計算に慣れさせる。 ○安全を第一にし、器具の扱いに関しては丁寧に時間をかけて指導する。
音楽	○積極的に歌唱や器楽の活動に参加できる生徒が多い。知識、実技ともに基礎的内容の習得が比較的早い。個人差が大きく、時間を要する生徒もいる。	○基礎的内容の習得では、繰り返して実践する場面をつくる。時間を要する生徒には、授業中の個別指導や、グループ学習等で相互アドバイスにより個人差を解消できるようにする。
美術	○意欲的に取り組んでいる生徒が多いが表現の工夫で困っている生徒がいる。制作については速やかに進められている。	○作品制作の過程で、視野を広げさせる助言を工夫していく。浅くまとめてしまう生徒もいるので、より深く考えることを助言する。
保健体育	○学習ノートの問いに対して、具体的に記述をすることが苦手な生徒が多い。また、妥当性がない文章になっている生徒が多い。	○授業の終わりにどのように記入すればよいかを口頭で伝える。次の授業の始めに、記述について良い例と良くない例を紹介する。また、文章の書き方についての指導も行う。

技術・家庭	○意欲的に学ぼうとする姿勢がよく見られる。 ○小学校での経験や他教科での既習事項を活用して取り組もうとしている。 ○知識的な分野の定着に差が見られる。 ○学習内容を自分の生活や将来と関連付けて、学びを深めたり広げたりしようとする意識に課題が見られる。	○ICTを活用し、資料や作業の進め方の例を提示して目標達成までをイメージさせ、理解を深める支援をする。また、繰り返し粘り強く取り組める声かけや時間設定を工夫する。 ○生徒用タブレットPCを利用し、主体的に取り組むための興味関心をより高め、学習内容に見通しをもたせて理解を深める。 ○導入やまとめに、実生活での実用例を挙げ、生活とつながる場面を想定できる工夫を入れる。 ○地域の特色を生かした具体的な課題を設定し、個人やグループで調べ、話し合い、発表する。
外国語（英語）	○書くことに対する抵抗感が強い。そのため単語の定着に課題があり、語彙の不足による誤答や無解答が見られる。 ○動詞の使い方に対する理解が不足している。日本語と同じように考えてしまう傾向がある。	○生徒の負担を考え、丁寧なライティング指導とゲーム性をもたせた活動を取り入れることで補強する。 ○単元ごとに文法を復習する機会をつくり、定着を図る。また、単元テストを行うことで個々の理解度を確認し、授業を組み立てていく。